

異人館は北野だけではないよ！ 旧ジェームス邸～井植記念館～旧グッゲンハイム邸



塩屋とはどんな所？

東西に長く伸びる六甲山系と海に挟まれ、異国文化と融合しながら発展してきた神戸。そのなかでも山と海が最も接近する塩屋は、どこか離島のような穏やかさを感じる神戸市西部の小さな街である。

明治になり、神戸以西への鉄道建設が始まったことを契機に外国人技術者たちが須磨や塩屋周辺の山麓に自宅として洋館を建てるようになった。さらにヨーロッパの貿易商人たちも洋館を建て住むようになった。いつしか海からすぐ近くの傾斜地にいくつもの洋館が建ち並ぶようになった。最盛期には70戸（このうち6戸が現存）ほどにもなり、独特の景観を生み出した。

また昭和に入ると、イギリス人貿易商アーネスト・ウィリアムス・ジェームスが自宅の着工にあわせて、大規模開発を行い、神戸で急増した外国人のために外国人専用住宅約60棟を建設した。やがてジェームスの名をとり、この地を「ジェームス山」と呼ぶようになった。

①旧ジェームス邸

当時流行したスパニッシュ様式の瀟洒な高級住宅で、明るいスペイン瓦と乾いたクリーム色の壁面が特徴的で、建物中央の屋上に円筒形の塔屋が目立つ。昭和5年（1930）にジェームスが外国人専用住宅の開発と同時に、この自宅を建設した。

ジェームス没後、この邸は三洋電機



創業者である井植歳男が所有し、長く「望淡閣」という三洋電機の迎賓館として使われてきた。

現在は結婚式場兼フレンチレストラン「ジェームス邸」になっている。食事をすれば神戸市有形文化財であるジェームス邸の内部や美しい庭を散策することができる。

2016 年の NHK 朝のテレビ小説「べっぴんさん」のロケ地にもなっている。

②ライオン像

旧ジェームス邸からさらに坂道を登っていくと、二股の道ばたにライオン像が鎮座している。

この像から左手はジェームスが約 7 万坪（東京ドームの 5 個分）の土地を開発して作った約 60 棟の外国人専用住宅がある。現在も日本人は立ち入り禁止になっている。うそみたいな本当の話である。



③井植記念館

三洋電機の創業者である井植歳男（※）は昭和 44 年（1969）7 月に 66 才でこの世を去ったが、翌年淡路島や明石海峡を一望できるジェームス山山頂（△92.1m）に建設された。

広大な芝生の庭園に鉄筋コンクリート造りの建物が、シンプルな中にも瀟洒なたたずまいをみせ、館内には井植歳男記念室、ホール、談話室などの施設がある。

記念室には、彼の系譜をはじめ、書籍、賞状、高等小学校の成績表などを展示し、また、三洋電機の創業期から生涯を閉じるまでの業績の一端や数々のエピソードをパネルにして展示している。

広大な芝生の庭園からの眺めは、眼下に遮るものがなく、海に向かって大阪湾を一望できる。

西には淡路島と明石海峡大橋が、東には関西空港や友が島が一望、ほぼ 360 度見渡すことができる。



（※）井植歳男（1902～1969）

ジェームスの自邸を買い取り、「望淡閣」として三洋電機の迎賓館にすると同時に、広大な外国人専用住宅も買い取った。さらに、関連事業として、自動車教習所やショッピングセンターなどをこのジェームス山に次々と開発、外国人居留地を中心として眺望抜群の近代的な街並みが広がる現在のジェームス山の基礎を築いた。

こよなく愛した故郷の淡路島を見渡せるこの地を、彼がいかに気に入っていたかがうかがえる。

④旧グッゲンハイム邸

明治から大正期にかけて神戸に滞在したドイツ系アメリカ人の貿易商グッゲンハイムが1909年から1912年にかけてのいずれかに建てたと考えられており、1915年まで住んでいた。

設計者は明らかでないが、建設年代や作風から神戸北野の多くの洋館を設計したアレクサンダー・ネルソン・ハンセルの設計ではと推定されている。

明るいコロニアルスタイルの外観意匠とブルー・グリーンの色使いが、海の青、空の青とよく調和して、どこか南国風の雰囲気漂わせる。1階と2階に設けられた5連アーチのベランダが特徴であり、2階の窓からは塩屋海岸とその向こうの海がよく見えた。

2000年頃から空き家となり、阪神淡路大震災の被害等も重なり、一時は取り壊しの話が出ていたが、地元塩屋在住のステンドグラス作家デュルト・森本康代さん一家が保存及び維持管理のために私財を投げうって購入した。修復作業完了後、長男森本アリ氏による管理のもと、貸会場として提供を開始し、コンサートや結婚式場、文化教室が開かれるなど地域に親しまれている。また、定期的に一般への無料公開をしている。

太平洋戦争前夜の神戸を舞台に巧みなサスペンスを描き、今年のベネチア国際映画祭で銀獅子賞を受けた黒沢清監督の映画「スパイの妻」のロケ地となった。



ところが、一昨年一大事実が判明！！

一昨年6月、北隣にある「旧竹内邸」が解体される可能性があることを知った日本建築学会近畿支部が保存を要望するために調査した。その過程で、旧グッゲンハイム邸の土地台帳にグッゲンハイム氏の名前がなく、「旧竹内邸」の土地を1906年にグッゲンハイム氏が取得していたことがわかった。また、アメリカにいる孫が保管する写真にも旧竹内邸の建物が写っている。すなわち二つの洋館が取り違えられていたのだ。すでに1969年発行の建築雑誌で誤った情報が掲載されていた。(2020.8.7付神戸新聞NEXT)

⑤後藤家住宅

大正中期（1920年代）に建てられた住宅で、神戸市指定景観形成重要建築物に指定されている。非公開。

背景の緑に対して屋根の赤の縁取りが目を引く。木造2階建ての擬洋風の洋館に平屋建ての和式建物が付属しており、西欧の建築様式を取り入れつつ、日本の伝統的技法を融合させた



建物である。

何十年か前、NHK ドラマで宮本輝作「花の降る午後」で、主人公の山手のお屋敷という設定で外観が使われており、またヒロインの岩下志麻が下の線路の遮断機のところで佇んでいたとか。

⑥大江家住宅

大正中期（1920 年代）に建てられた住宅で、神戸市指定景観形成重要建築物に指定されている。



⑦旧竹内家住宅

グッゲンハイム氏の本当の住宅と昨年判明。

日本建築学会近畿支部が歴史的価値を踏まえて保存活用するように求める要望書を所有する企業に提出しているが、どうなるか不明である。

⑧西向地藏尊

上記の異人館のそばに地藏尊が西向に安置されている。明治から大正にかけて塩屋の海で地引網にかかり、引き上げられたとか。以来西向地藏尊として親しまれている。

この地藏尊の頭上には屋根がない。最初は頭の上まで屋根を造ったが、三度も火災にあい焼け落ちてしまった。修験者に拜んでもらうと、「我は竜神の化身なり。よって頭上の屋根は不要」とのお告げがあった。それ以後屋根は造られていない。

また、一願地藏といわれ、一心に願えば真心が届くと言われている。

石板の卅の下に「ジョネス」とある。2013 年に残念ながら取り壊しとなった旧ジョネス邸の 持ち主であったイギリス人貿易商ジョネスのことである。彼がいかに地元になじんでいたかを知ることができる。



（次回予告）

2022.5.21

兵庫史を歩く No26 民俗学者のふるさと妖怪の里

柳田國男生家～辻川山～三木家住宅

河童のガジロウとガタロウに会いに行こう！

